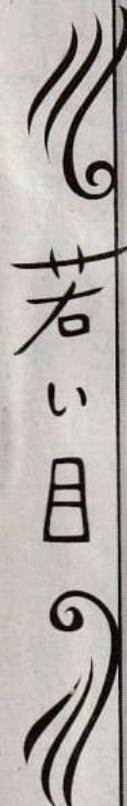


# 未来へつなげよう

鹿児島東高2年

梅木 彩加

「総合的な探究の時間」で、森林と林業について学びました。「地材地建」という言葉が心に残りました。鹿児島県独自の造語で、地元産の木材を使い、地元の工務店などが木造住宅を建設することと教わりました。「地産地消」に似ています。地材地建には主に二つ



の狙いがあります。一つは地球温暖化の防止です。適正な森林整備は植林、間伐、成長した樹木の伐採、そして苗木の植林というサイクルで行われます。その過程で住宅建築に使われ、保全・再生された森林は二酸化炭素を吸収し、温暖化防止につながります。

二つ目は、生産者と消費者との距離がぐんと縮まるところです。地元の木材生産者や住宅建築関係者と住宅を建てる顧客が一体となつて家を建て、子どもたちの世代へつないでいく。お互いがつながりの中にいることを実感できます。

木が成長するのに50〜60年かかるということも驚きました。今、私たち成長した木を目にする事ができるのは、祖父や曾祖父らが植えてくれたからです。森林にとどまらず、さまざまな伝統や文化も、世代を超えて受け継がれていくのだと感慨深くなりました。私たちがもしっかり次世代へバトンを渡したいと思いました。(鹿児島市)